

国名	マレーシア (Malaysia)	
主要な言語 <sup>1)</sup>	マレー語 (国語)、中国語、タミール語、英語	
人口学的データ	総人口 (人) <sup>2)</sup>	32,780,284人 (2022年)
	15歳未満人口割合(%) <sup>2)</sup>	33.4% (2022年)
	65歳以上人口割合(%) <sup>2)</sup>	10.5% (2022年)
	平均寿命 (歳) <sup>2)</sup>	男性 70.5歳 女性 74.7歳 (2022年)
	5歳未満児死亡率 (出生千対) <sup>2)</sup>	7.4 (2021年)
	妊産婦死亡率 (出生10万対) <sup>3)</sup>	29 (2019年)
	中等教育(中学) 就学率 (%) <sup>4)</sup>	男性 82% (2021年) 女性 87% (2021年)
主要な死因 <sup>6)</sup>	1位 虚血性心疾患 2位 肺炎 3位 脳血管疾患 4位 交通事故 5位 気管、気管支および肺の悪性新生物	
主要な民族 <sup>6)</sup>	マレー系 (61.8%)、中国系 (22.6%)、インド系 (6.7%)	
主要な宗教 <sup>6)</sup>	イスラム教 (連邦の宗教) (61.3%)、仏教 (19.8%)、キリスト教 (9.2%)、ヒンドゥー教 (6.3%)、儒教・道教等 (1.3%)、その他	
日本在留外国人 (%) <sup>5)</sup>	10,561人(0.4%) (2022年)	
<b>文化社会的特徴</b>		
1. 特徴的な価値観・行動・生活習慣 <sup>6)</sup>	<p>マレーシアは、憲法上イスラム教を国教 (連邦の宗教) と定めており、人口の半分以上を占めるイスラム教徒の間では、次のような教義、風俗、習慣があるので、外国人としても承知しておく必要がある。</p> <p>酒、豚はタブー。 左手は不浄なものとされているので、握手、物の受け渡しは右手を使用。 人差し指で指すことは失礼なこととされているので、親指を使用。 頭は、身体の神聖な部分とされているので、子供でも頭はなでない。 婦人にはこちらから握手を求めない。 日没から夕方の祈りの時間が始まるので、日没後1時間くらいは訪問および電話は避ける。 イスラム教徒を招待する夜の行事の開始時間は慎重に決めるのが無難。 イスラム教徒 (マレー系とごく一部の中国系およびインド系) は毎年、イスラム暦に従って約1ヶ月間、日の出から日没までの間は飲食・喫煙を断つ断食を行う。この期間中、イスラム教徒を食事に招待する場合は、時間に注意することが必要。また、日中の断食は、相当な苦行のはずなので、交際にあたっては、相手に対する理解と寛容さが求められる。</p>	
2. 重要な意思決定にあたって留意すること	マレーシアでは、家族(特に家長) が医療決定において重要な役割を果たしている。	
3. 食文化 <sup>7)</sup>	<p>イスラム国家ではあるが、多民族であることから非ムスリムの華人や外国人は飲酒も可能であり、豚肉も食べたりと非常に食の自由度が高い。特に中華系移民の間から発祥したマレーシアでしか味わえない食べ物もある。その中でも肉骨茶であるバクテーは人気が高い。南国なので果物は非常に多彩であり、特にドリアンはもっともポピュラーな果物のひとつであり、屋台などでも容易に購入できる。ただし、マレーシアの食料自給率は高いとはいえ、果物の多くも国外からの輸入である。マレー料理の代表として、ココナッツミルクで炊いたご飯に油で揚げたにぼし・ピーナッツ、ゆで玉子・きゅうりを乗せ辛いソースを添えたナシレマツが挙げられる。インド系料理の代表として、ロティやトサイという米粉や小麦粉をクレープ状に焼いたものに、カレー風味のソースをつけて食べる朝食がある。マレーシア人は良く魚を食べており、魚介類消費量は1人当たり年56.5キロと日本より多い。一方で、マレーシアの漁獲高は年を追うごとに減り続けており、世界自然保護基金はこのままだと同国の水産資源は2048年に枯渇するとしている。</p>	

4. 衛生に関する価値観 <sup>9)</sup>	<p>1.都市の衛生状態 クアラルンプールはよく整備されており、ゴミも少なく衛生状態としてはかなり良いと言える。</p> <p>2.水 水道水は東南アジアの中ではかなりきれいな方だが、十分殺菌されていない。飲み水としては浄水器を通した後、沸騰させたものを使うか、ミネラルウォーターなどを利用する。洗面、入浴などには特に問題はない。また見た目にも濁りがわかることもあり、コンタクトレンズの洗浄には適さない（目に見えない微粒子でレンズに傷が付くため）。もちろん保存液として使用できない。</p> <p>3.食品 全体としては比較的安全であるが、熱帯にはさまざまな感染症が存在するので油断はできない。果物を除くあらゆる食品について加熱調理が基本で、生ものは避けた方がよく、加熱しても、火を通してから時間が経っている場合は意味がない。加熱によってせっかく病原菌を殺しても、しばらく置いておけば生き残ったものが増殖したり、新たに付着したものが増殖したりする。特に熱帯では室温は細菌の繁殖に絶好の環境となる。菜類は寄生虫感染の危険性があり、注意が必要である。</p>
5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動	<p>病院に受診したり、入院したりする場合は、家族の付き添いが多く、家族が頻繁に訪問することも考えられる。</p>
6. 妊娠・出産に関する価値観・行動	<p>産婦人科医師も各民族がいる、それぞれの考え方に合う医師を患者さんが選択する。イスラム教徒は、髪の毛を他の男性に見られないためにヒジャブをしているだけあって、女医を好む。男性医師に診てもらう場合は、患者を診るのに夫の許可や立会いが必要なので、イスラム教徒には女医が人気。</p> <p>妊娠中、子宮収縮作用があると信じられている、ドリアンとパイナップルは控える。妊娠中の熟したパパイヤの通常の摂取は、重大な危険をもたらさない可能性があることが示唆されているが、未熟または半熟のパパイヤ（著しい子宮収縮を引き起こすラテックスを高濃度で含む）は、妊娠に安全ではない可能性が示唆されている<sup>8)</sup>。</p>
7. 育児に関する価値観・行動 <sup>9)</sup>	<p>マレーシアでは出産休暇として、女性従業員は連続で60日間以上の出産休暇を取得する権利があり、出産手当が支給される。取得できる日数、出産手当の額、その他のサポートの有無は会社により異なり、日本のように1歳までの育児休業はない。</p>
8. 高齢者に関する価値観・行動	<p>マレーシアは、老いの不安を持っている人が、29カ国の中で4番目に多い<sup>10)</sup>。</p> <p>その理由は、以下の通り。</p> <p>人々は、エンドオブライフケアはお金がかかると考える傾向がある。</p> <p>医療費がかかることを恐れて、多くの人は家族と死の計画について話し合うことを後回しにする。</p> <p>コストが問題ではない場合でも、迷信のために死の話題はほとんどタブーになっている。</p> <p>マレーシアでは、家族が要介護者の医療決定において重要な役割を果たしている。</p> <p>被介護者はしばしば家族の決定に従わなくてはならないと感じている。</p> <p>したがって、要介護者が最終日の生活をどこでどのように過ごすかを決定しにくい場合がある。</p>
9. 終末期・葬儀に関する価値観・行動 <sup>11)</sup>	<p>マレー系 ほとんどのマレー人はイスラム教のため、ムスリムの習慣に則って葬儀が執り行われる。死者が出ると、モスク内の遺体担当に知らされ親族に報告される。基本的には土葬である。埋葬は早く、午前中に亡くなると午後には埋葬、午後の場合は翌朝埋葬される。モスクで葬儀が行われ、参列して墓地へ。頭をメッカの方向へ向けて、導師が祈りを捧げ、死後も死者の供養の儀式を行う。</p> <p>中国系 中国系のお葬式は、祭壇が設けられ比較的賑やかに行われる事が多いようである。遺体は棺に納められており、顔だけ出した小さなガラス張りは日本と同じである。化粧や衣装直しも同じだが、葬儀の花や飾り付けは質素である。お通夜から葬儀まで約1週間程続き、自宅に設置されたテントには昼夜関係なく人々が集まり故人との思い出を偲ぶ。中国系の方は百歳以上の大往生だった場合は、祝って送るため喪に服したりせず、提灯は赤い文字で。百歳未満の場合は青い文字で書かれる。中国系では火葬が多く、遺骨は箸でつまんで骨壺へ収められる。後日、遺骨を霊園の納骨堂に納めに行くが遺骨は赤い布で包んで持ち歩くのが習わし。骨壺を赤いリボンで結ぶのが日本とは異なる習慣である。</p>

10. 本国の医療職・医療サービスに関する特徴 <sup>6)</sup>	<p>東南アジア諸国の中ではインフラ整備が進んでおり、首都クアラルンプールは非常に近代的な都市である。しかし都市部を離れるとインフラ・衛生状況も日本とは異なり、上水道は比較的管理されているが、配管・貯水槽の管理に問題があるためミネラルウォーターや浄水器の使用を勧める。ヘイズが見られることがあり、目やのどの痛みを訴える人もいる。これは、インドネシアのスマトラ島やカリマンタン島における焼畑農業や山火事に起因する煙、排気ガスなどに含まれる微粒子が原因となって起こる大気汚染の一種である。ヘイズは4月から10月にかけて悪化し、汚染された大気は南西モンスーンによって隣国のシンガポールやマレーシアを覆い、健康被害が懸念されるようになる。</p>
11. その他の保健医療に関する特徴 <sup>6)</sup>	<p>かかり易い病気・怪我</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性胃腸炎</li> <li>・デング熱・チクングニア熱</li> <li>・ジカウイルス感染症</li> <li>・日本脳炎</li> <li>・マラリア</li> <li>・狂犬病</li> <li>・レプトスピラ症・類鼻疽（るいびそ）</li> <li>・ポリオ</li> <li>・その他の感染症（腸チフス A型肝炎・B型肝炎）</li> </ul> <p>・社会制度（Social Security Organization : SOCSO）がある。傷害・就労不能保険制度から成り、マレーシア人および永住権、居住権を有する外国人の被雇用者は強制加入対象（日本人も対象となる）。</p> <p>・家庭医（ホームドクター）制度がある。</p>
12. 教育制度 <sup>12)</sup>	<p>小学校（国民学校）： 6年  中学校（前期中等教育）： 3年  高等学校（後期中等教育）： 2年  大学： 3～5年</p> <p>1. 就学前教育:  就学前教育は、4～5歳児を対象に、幼稚園で行われる。</p> <p>2. 義務教育  義務教育は、6～12歳の6年である。</p> <p>3. 初等教育  初等教育は、6歳入学で6年間、国民学校で行われる。マレー語で教育を行う国民学校のほかに、中国語又はインド系のタミール語で教育を行う国民学校があり、これらの学校においてもマレー語が必修教科となっている。卒業者は、国民学校卒業証書が授与される。</p> <p>4. 中等教育  中等教育は前期と後期に分かれる。前期中等教育は、3年間、前期中等学校で行われ、卒業者は前期中等学校卒業証書が授与される。中国語やタミール語を教授言語とする国民学校出身の生徒は、通常、教授言語であるマレー語を習得するための課程（1年）を経てから入学する。後期中等教育は、2年制の後期中等学校及び2年制の中等技術学校で行われる。中等教育修了時には、全国共通試験が実施され、合格者にはマレーシア教育修了証が授与される。</p> <p>5. 高等教育  高等教育は、大学、カレッジ及びポリテクニクで行われる。大学への入学に際しては、中等教育修了後の2年間、中等学校又は大学に置かれる2年制の準備教育課程で高度中等学校卒業証取得した者を対象に、各大学の入学者選抜試験が行われる。大学には学士課程（3～5年）のほか、学卒ディプロマ（1年）、修士課程（2年）及び博士課程（3年以上）が置かれている。カレッジ及びポリテクニクには、中等教育修了者を対象とする技術・職業教育コース（1～3年）が設けられ、卒業者は職業技術資格証やディプロマを授与される。  文部科学省、世界の学校体系（アジア）</p>
13. その他の特徴	

14. 出典	<p>1) 外務省：マレーシア（Malaysia）基礎データ <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html</a> 令和3年12月16日</p> <p>2) Department of Statistics Malaysia Official Website, <a href="https://www.dosm.gov.my/v1/index.php">https://www.dosm.gov.my/v1/index.php</a></p> <p>3) UNICEF Data: Monitoring the situation of children and women, Malaysia, <a href="https://data.unicef.org/country/mys/#/">https://data.unicef.org/country/mys/#/</a></p> <p>4) The world Bank, 2022, School enrollment, secondary (% gross) - Malaysia, <a href="https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR?locations=MY">https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.ENRR?locations=MY</a></p> <p>5) 総務省統計局，2022，在留外国人統計, <a href="https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?tclass=000001048670&amp;cycle=1&amp;year=20220&amp;month=12040606">https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?tclass=000001048670&amp;cycle=1&amp;year=20220&amp;month=12040606</a></p> <p>6) 在マレーシア日本国大使館，マレーシア生活安全情報，<a href="https://www.my.emb-japan.go.jp/Japanese/guide2014/guide2014-7.html">https://www.my.emb-japan.go.jp/Japanese/guide2014/guide2014-7.html</a></p> <p>7) Wikipedia, マレーシア</p> <p>8) Adebowale Adebisi et al (2002) Papaya (Carica papaya) consumption is unsafe in pregnancy: fact or fable? Scientific evaluation of a common belief in some parts of Asia using a rat model, British Journal of Nutrition, 88, 199–203</p> <p>9) So Da Tu, マレーシア 多様性溢れる子育てしやすい国, <a href="http://www.sodatsu.com/article/world_03_03.html">http://www.sodatsu.com/article/world_03_03.html</a></p> <p>10) Market research firm Ipsos (2018) <a href="https://www.theborneopost.com/2019/08/15/malaysians-dread-growing-old-survey/">https://www.theborneopost.com/2019/08/15/malaysians-dread-growing-old-survey/</a></p> <p>11) マレーシアのお葬式事情, <a href="https://ameblo.jp/makomaco49/entry-12436598876.html">https://ameblo.jp/makomaco49/entry-12436598876.html</a></p> <p>12) 文部科学省，世界の学校体系（アジア）<a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1396848.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1396848.htm</a></p>
--------	---

担当者：大植 崇（兵庫大学看護学部看護学科） 確認者：Dr. Hamidah Hassan Faculty of Medicine and Health Sciences Universiti Tunku Abdul Rahman (UTAR)  
承認日：2023年2月25日